

平成30年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立立川国際中等教育学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成
副校長（前期・後期課程）、教務主任 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長3名（前期・後期課程）、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、国際部主任、総務部主任、保健相談部主任、6学年主任、3学年主任 計13名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授、元都立学校長、私立大学研究員）、近隣中学校長、小学校長
PTA会長、教育庁指導部、市教育委員会、自治会長 計9名

2 平成30年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成30年 6月16日（土）内部委員13名、協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、学校経営計画・本校の現状と課題等説明、平成30年度の活動予定、意見交換
 - 第2回 平成30年11月10日（土）内部委員13名、協議委員8名
学習指導・生活指導・進路指導・国際理解教育・学年学級経営に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケートの内容検討、協議
 - 第3回 平成31年 2月16日（土）内部委員13名、協議委員7名
学習指導・生活指導・進路指導・国際理解教育・学年学級経営に関する報告、学校評価アンケート集計結果報告、平成30年度入学者決定に関する状況報告、協議委員からの教育活動に対する意見、次年度への提言
- (2) 評価委員会の開催日、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成30年11月10日（土）内部委員1名、協議委員2名
今年度の学校評価アンケートの観点、項目、内容、実施時期の検討
 - 第2回 平成30年 2月16日（木）内部委員1名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察・課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
 - ① 生徒、保護者、教職員に対し、本校の教育活動全般について同じ評価アンケートを実施して比較する。
 - ② 地域住民に対しては、学校への理解の問いかけを中心に行う。

(2) アンケートの調査時期・対象・回収数

実施時期	12月1日～25日	生徒	882人 (95.0%)
		保護者	689人 (74.0%)
		本校教職員	60人 (100%)
		地域住民	53人 (18.5%)

(3) 主な評価項目

学校目標、学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、学校の特色、施設・設備、家庭と学校

の連携、学校からの情報発信、国際理解教育等

(4) 評価結果の分析・考察

- ① 学校満足度は、全体的に、昨年度教員を除き 85%以上が肯定的な評価をしており良好であったが、今年度は、生徒が約 5%、教員が 9%（人数にすると 5 名）の評価が下がっている。生徒の評価の低下の要因は、特定の学年あるいはクラスが他のそれと比べて評価が低いことである。当該学年・クラスで考察する必要がある。
- ② 生徒・保護者の授業に対する評価は教員の評価よりも、14%～16%以上低いという結果がでた。保護者と生徒の評価は大きく変わっておらず、教員の自らの授業に対する評価が 9%上がったためその差が広がった。教員の授業を工夫している反面、生徒の受け取りかたの乖離について、授業評価等の傾向と比較検討する必要がある。
- ③ 「進路指導は計画的に必要な情報が伝わる」に対して、今年度は、生徒と教員で評価が大きく下がった。特に生徒の評価の低下は大きい。時期を得た進路情報の提供（「進路だより」）や、発信する情報の内容等に改善と検討の余地は充分にあり、進路指導部を中心とした進路指導体制の再構築は喫緊の課題である。
- ④ 学校行事への積極的な参加について、生徒では過去 3 年間で 8 割肯定的評価を下回ったのは本年度が初めてである。保護者ではさらに高い 9 割という肯定的評価を得ており、昨年度からの変化もほとんどない。概ね良好な結果といえる。また、教員の肯定的評価も良好といえる。今後も現在の学校行事への取組を続けていく。
- ⑤ 生徒の、生徒会や委員会活動への参加については、保護者の肯定的評価は、本年度も含めて過去 3 年間ほとんど横ばいで変化がないが、生徒は 5 ポイント下降した。教員は 28 年度に 64.8%、29 年度に 56.0%、本年度 68.3%と 12 ポイント上昇し、変動が激しい。本年度も教員が生徒の生徒会活動や委員会に対する取組が積極的ではないと考えている。生徒指導部を中心にして生徒への働きかけ等、指導の工夫が必要である。
- ④ 読書活動への取組の評価項目を加えてから 4 年目となった。昨年度は、生徒・保護者・教員ともに微増したが、本年度はすべてで減少した結果となった。この結果を受け、読書活動の取組を見直す時期にきており、喫緊に新たな方策を図る必要がある。
- ⑤ 施設・設備に対する評価は、過去 3 年間連続で、生徒・保護者・教員すべてで他の項目と比べて圧倒的に評価が低だけでなく、昨年度よりもさらに全対象で評価が下がった。一昨年度、特別教室や多展開授業のための講義室等に空調設備が整い学習環境は改善された。一方で、老朽化による施設の修繕改善が遅れているためが一つの要因と考えられる。
- ⑥ 登下校時の交通マナーに関しては、引き続き地域住民から厳しい評価をいただいている一方で、生徒の挨拶のマナーの良さも挙げられていた。本校生徒が改善の傾向もあり、地域の期待に応え、地域に愛される学校づくりを、今後とも一層進めていく必要がある。また、「立国タイムズ」などの情報発信について一定の評価をいただき、学校への理解度を高めており、地域に開かれた学校を目指す工夫をさらにすすめる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① 新学習指導要領の三つの柱に沿った授業改善に向けた取組を充実させていく必要性が明確になった。
- ② 放課後の補習、補講や長期休業中の講習など学習活動の充実と部活動との両立を可能にする手だてを、学校として引き続き模索していく必要性が明確になった。
- ③ すべての教育活動に係る施設・設備の充実に向けて、今後も引き続き取り組んでいかなければならないことが明確になった。
- ④ 地域住民の本校に対する期待と不満が把握できた。また、学校の情報発信の工夫により地域住民の理解が深まることが分かった。次年度の生活指導や学校行事や学校公開事業等を活用して地域との交流計画等に取り入れ、生かしていく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ① 全体的には肯定的な評価を得ている項目でも、生徒・保護者と教員との評価に大きな乖離が出る項目がある。こうした項目については、特に検証を重ねて次年度の経営計画に生かす。
- ② 生徒の進路実現に向けた教員の指導力・授業力の向上。
- ③ 部活動と学習のバランスの取れた教育環境（施設・設備も含めて）の整備。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ① 生徒・保護者に対して、全校集会や保護者会等、機会あるごとに進路実現に向けた方針や取組みを説明し、本校の進路指導やキャリア教育に対する保護者の理解・協力を得る。
- ② 「学校だより」、「学年だより」、「立国タイムズ」、ホームページやツイッターの適時適切な活用など、学校の教育活動に関する情報発信を密にして、地域も含めた教育活動への理解促進を図る。
- ③ 進路指導部を中心として、学校全体として進学実績向上に向けて取組む。
- ④ 国際理解教育を1つの柱として、さらに充実させていく。
- ⑤ 学校評価アンケートの検証を校内研修で活用するとともに、課題点について保護者との情報交換会を行う。

(2) 学習指導

- ① 指名制による授業研究、塾・予備校主催の研修会、指導教諭による模擬授業・公開授業などへの積極的な参加を教員に呼びかけ、指導力・授業力向上を図るとともに、校内研修会を計画的に開催し、学校全体として授業力・教科指導力の向上を図る。
- ② 学期中の補習、講習及び長期休業中の講習を組織的かつ計画的に実施するとともに、部活動との両立に向けた指導計画を作成する。

(3) 進路指導

- ① 6年間を見据えた進路指導計画を基に、外部模試、進路講演会等のキャリアガイダンスを計画的に行う。
- ② 3者面談の学校一斉実施（7月末）など、従来の取組をさらに充実させるとともに、学校

の進路指導を保護者に周知するなど、保護者から理解と協力を得られる体制整備を行う。

- ③ 模擬試験の定点観測を基に、分析会、ケース会議をさらに充実させ、学校全体で生徒の現状を把握し、その進路実現に向けて指導体制をさらに充実させる。

(4) 広報活動

- ① ホームページへの情報掲載を適時に行い教育活動の可視化をさらに進める。
- ② ツイッターを活用して、宿泊を伴う学校行事や台風や地震等の災害時の家庭への情報発信を迅速に行う体制をさらに充実させる。
- ② 学校行事での地域との連携をさらに推し進め、学校の教育活動の情報を地域に積極的に発信していく体制を構築し、地域に愛される学校づくりをめざす。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 8名 (9名中)

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
6	2					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】 なし

8 その他

- (1) 地域からのアンケート回収率を上げるため、配布地域と方法を再検討する。